

第25回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成29年2月27日(月) 10:00~11:25

2. 場 所:原子力規制委員会13階 会議室 C

3. 出席者

原子力規制委員会

更田原子力規制委員

原子力規制庁

櫻田技術総括審議官、山田原子力規制部長、大村緊急事態対策監、青木審議官、小林耐震等規制総括官、小野安全規制管理官(BWR担当)、市村安全規制管理官(PWR担当)、澤田安全規制管理官(発電炉検査担当)、尾崎係長(安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置担当)代理)、片岡安全規制管理官(再処理・加工・使用担当)、青木安全規制管理官(廃棄物・貯蔵・輸送担当)、倉崎技術基盤課長、鬼沢安全技術管理官(システム安全担当)、梶本安全技術管理官(シビアアクシデント担当)、内田安全技術管理官(核燃料廃棄物担当)、小林安全技術管理官(地震・津波担当)、平野地域連携推進官(国際室)、原国際室長、飯島首席技術研究調査官、杉野統括技術研究調査官、日比野主任技術研究調査官、二宮品質管理専門官、永井品質管理専門官、鈴木係長、迎企画調整官、岩澤課長補佐、市川課長補佐、角谷係長

日本原子力研究開発機構

中塚規制情報分析室技術主幹

事務局

荒木原子力規制企画課長、石井企画官、小林課長補佐、帯刀課長補佐、片岡専門職、根塚課長補佐、松田係員

4. 議題

- (1) 【報告】 2016年鳥取県中部の地震に関する各種データの収集・整理結果について(案)
- (2) 【報告】 地震調査委員会「波源断層を特性化した津波の予測手法(津波レシピ)」について(案)
- (3) 【報告】 スクリーニングの状況について(案)
 - (3-1) スクリーニングの状況について(案)
 - (3-2) 格納容器再循環サンプスクリーンに対する海水腐食の影響検討について(案)
 - (3-3) 海外情報「格納容器フィルタベント系の効率に関する新たな知見」について(案)
- (4) その他

5. 議事要旨

(1) 2016年鳥取県中部の地震に関する各種データの収集・整理結果について(案)

安全技術管理官(地震・津波担当)より、資料25-2に基づき、「2016年鳥取県中部の地震に関する各種データの収集・整理結果について(案)」について説明がなされた。当該地震記録については、「震源を特定せず策定する地震動」の地震動データの収集・整理の方針に従って整理した結果、「震源を特定せず策定する地震動」の評価において収集対象とすべき観測記録には該当しないことに特段の異論はなかった。なお、新たに発生する地震について、「基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド」には上記の収集・整理の方針も含め取り扱いを明示していないので、本検討結果等も踏まえて

見直しの要否を検討することとなった。

(2) 地震調査委員会「波源断層を特性化した津波の予測手法(津波レシピ)について(案)

安全技術管理官(地震・津波担当)より、資料25-3に基づき、「地震調査委員会「波源断層を特性化した津波の予測手法(津波レシピ)」について(案)」について説明がなされた。

「本津波レシピの公表に伴い、基準津波ガイドを改訂する必要はない」と結論付けに特段の異論はなかったものの、その根拠の記載を論理的にわかるように修正して、次回の技術情報検討会に確定版として提出することとなった。

(3) スクリーニングの状況について(案)

(3-1) スクリーニングの状況について(案)

原子力規制企画課より、資料25-4「スクリーニングと要対応技術情報の状況(案)」、資料25-5「2次スクリーニングの検討状況(案)」及び資料25-6「1次スクリーニング結果(案)」に基づいて、平成29年1月14日から2月16日までのスクリーニング状況について説明がなされた。

今回は、議題(3-2)、(3-3)で説明する2案件を除いて、1次スクリーニングにおいて、スクリーニングアウトする旨が説明された。

議論の中で、1次スクリーニングの結果、新たな規制対応が不要となった案件も含め、スクリーニングされたすべての案件について、原子力規制企画課より、原子力安全推進協会(JANSI)に、重要度の軽重をつけて連絡しており、その内容は JANSI を通して事業者へ情報共有されている旨が説明された。本資料25-6については、コメントがあれば、1週間を目処に事務局まで連絡をいただき、それを検討・反映した上で、次回技術情報検討会で確定版として提出することが伝えられた。

(3-2) 格納容器再循環サンプスクリーンに対する海水腐食の影響検討について

原子力規制企画課より、資料25-7に基づき、「格納容器再循環サンプスクリーンに対する海水腐食の影響検討について(案)」について説明がなされた。

議論の結果、2次でスクリーニングアウトすることに特段の異論はなかった。ただし、電力事業者から報告された海水腐食量は、極めて保守的な条件で検討されたものであり、そのような条件下においてサンプスクリーンを使用した「海水注入時の再循環運転」が可能であるとしている。そのため、その評価方法が極めて保守的となってしまうことから、「3. 今後の対応」の記載等を見直して、次回の技術情報検討会で確定版として提出することとなった。

(3-3) 海外情報「格納容器フィルタベント系の効率に関する新たな知見」について

原子力規制企画課より、資料25-8に基づいて、「海外情報「格納容器フィルタベント系の効率に関する新たな知見」について(案)」について説明がなされ、2次でスクリーニングアウトすることに特段の異論はなかった。

(4) その他

○次回開催は、4月10日(月)午前の予定とした。

以上